

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	親しみやすく分かりやすい簡単な言葉で理念を表現し取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや毎朝の朝礼時に職員及び管理者で理念等を復唱し取り組んでいる。又、入社時には、理念を理解してもらう為の研修を行っている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約書に明示しており、事前訪問時・契約時等に必ず説明している。又、玄関ホール、各ユニットに掲示しており、誰もが確認できるようにして取り組んでいる。地域の行事には積極的に参加しており、ホームについての理解を深めるよう努力している。	○	地域の人々が参加できるホームの行事(みちくさ祭り、バザー等)を多くの人々に参加していただけるように積極的に呼びかけていきたい。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者や職員は、業務中はもちろんのこと通勤時等にも挨拶を行っている。又、玄関まわりには、草花を植えベンチを設置するなどして気軽に立ち寄っていただける雰囲気を作っている。夏場はベンチで休憩されている人に麦茶などを出しており喜ばれている。		
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、盆踊り大会、バザー等に積極的に参加して交流に努めている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月のグループホーム全体会議や施設内委員会等で何か出来る事はないかを検討している。現在、定期的に施設周辺の清掃などを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を通じて、評価の必要性や意識の向上・改善にミーティング等で話し合い取り組んでいる。	○	不十分なところもあり、多くの話し合う機会を作りケアの質の向上に努めたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月運営推進会議を開催し利用者やサービスの実際、取り組み状況について報告や話し合い、地域活動等について意見の交換を行っている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域担当者や地域包括支援センターなど連携し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を有効活用できるように話し合い、必要な人には利用している。	○	職員の中には地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を十分に理解していない人もいるのではないかと考えられる為、勉強会等で理解を深めていきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待等についての勉強会で意識向上に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時には、十分な時間をとり利用者や家族等の不安・疑問点の解消に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情について傾聴 し直ぐに改善できるよう努めている。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	家族の来所時に利用者の日常生活状況や 職員の異動等を報告している。又、イベン トや日常生活の様子を写真に残し、家族に わかるようにしている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時に生活に対する思いや意向 を伺うようにしている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	ユニットミーティングやグループホーム 全体会議等で職員からの意見や提案が出来 るようにしている。また、その内容につい て話し合う機会を設けている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	利用者の個々の要望に応えられるように 勤務体制を整えている。また、職員の勤務 も無理のないように希望休・夜勤明けの休 日など勤務の調整を行っている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力行わず、働きやすく明 るい職場作りに取り組んでいる。また、日 頃より職員は、施設利用者すべてに対し関 わりを持つようにし、職員交代に対する利 用者のダメージを防ぐようにしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別等で排除することなく採用している。職員個々の能力が十分活かせるように、また働きやすく明るい職場作りに努めている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	本や資料の提供や積極的な研修参加を支援している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の実施、施設外研修の参加支援を行っている。また、新しい事への取り組みにも積極的に支援している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと合同で利用者・職員の交流会を行っている。また、合同で勉強会を行い、交換実習等でサービスの質の向上に取り組んでいる。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ユニット外で職員がリラックス出来る休憩室を設けている。畳の上で足を伸ばせる空間とテレビ等でリラックス出来るように配慮している。また、内外との親睦会を実施している。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	段階に応じて責任のある業務に取り組めるように支援し、目標をもって働けるよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談窓口を設けており随時相談を受けている。また、利用に至るまで十分に訴え等を聞ける機会を設け、受けとめる努力をしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談窓口を設けており随時相談を受けている。また、利用に至るまで十分に家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を聞ける機会を設け、受けとめる努力をしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直ぐに利用ではなく、今必要な支援が何かを見極め話し合いを行うように努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学・体験入所等を行い、場の雰囲気徐々に馴染めるよう御家族と相談しながら行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	寄り添う介護を基盤に一緒に過ごしながら支えていく関係を築き、支援している。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との意見・情報交換はもちろん、利用者を共に支えていく関係を築いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来所時（イベント等を含む）に利用者と家族がより良い関係が築いていける環境作りに努めている。また、本人と家族との関係の理解に努め、協力し支援を行っている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に電話や手紙等で関係が途切れないように支援している。また、懐かしい場所・地域などの散策等をドライブや散歩など通じて行っている		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者の性格や生活環境を把握し、利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている。また、職員が間に入りより良い関係が築けるように努めている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族への情報の提供や相談の受付等、利用終了後も気軽に相談できる関係、又継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいに努めている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者及び家族からの聞き取りを行い、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。話しやすい環境作りにも取り組んでいる。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者及び家族からの聞き取りを行い、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めケアに活かしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の近くで自然な形で記録できるように当日分の用紙のみバインダーに挟むようにしている。また、毎朝の健康チェックや異変を感じた時、数ヶ月前との身体状況の比較等で総合的に把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人からの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の聞き取り、家族からの情報や意見等を考慮し、個々の特徴を踏まえた介護計画作成に努めている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院時や心身状態の変化に合わせ介護計画の見直しを行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの内容を個別に記載し実践している。又、介護記録には行動だけではなく発した言葉も出来るだけ記入するようにしている。連絡帳(気付きノート)を作り、介護計画・個別ケア計画に活かしている。	○	連絡帳(気付きノート)の大半が施設内の連絡帳として利用されることが多く、あまり活用されていない為、業務メモ用紙をバインダーに挟み、いつでも書き込めるようにし介護計画の見直しに活かしている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2回/月の往診や定期的な受診等を行い利用者の健康管理・異常の早期発見に努め、負担となる入院の回避に努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安全で豊かな暮らしを楽しめるよう、民生委員やボランティア、町内会、自治会、警察、消防等と協力し支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	個々の意向や必要性に応じて、生活支援に結びつく介護保険外サービスを受けられるよう支援している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	連絡を密に取るよう心掛けている。地域包括支援センターや支援事業者との連係を図り、相談等も受けている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医と連携をとり、利用者及び家族が納得した医療を受けられるように支援している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門員に協力医をお願いし、診断や治療を受けられるよう支援している。		
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤看護職員と利用者の健康管理等を相談し支援している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向けて医療機関との情報交換や相談に努めている。また、医療関係者と連携を図り、生活リハビリを中心としたケアを実施している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時及び定期的に終末期の本人や家族の意向を踏まえ、方針を話し合い共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態に応じたより良い豊かな生活を提供出来るようにかかりつけ医との連携を図り、チームでの支援に努めている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、馴染みの物を多く取り入れ環境の変化を最小限にし、ダメージを防ぐことに努めている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々を中傷するような言葉かけや対応に注意し、記録等の個人情報の取り扱いに注意している。また、守秘義務の徹底に努めている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の意見・要望等の訴えに対し傾聴する姿勢で接し、自己決定を尊重し支援している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の生活スタイルを尊重し、その人らしい生活が出来るよう支援している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	事前に好み等を本人や家族から聞き、維持できるように支援している。1回/月のホーム内での理容・美容のほか、施設外の理容・美容店と協力し本人の望む店に行けるように努めている		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も三食同じ食事を摂りながら、個々の身体状況に応じ職員と一緒に準備から片付けまでをサポートするよう心掛けている。		
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康に注意を払いながら飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを楽しめるように支援している。利用者や家族等の喫煙場所も確保している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄のパターン、習慣を活かし、又体調の変化や身体状況に応じ、昼夜などその時々によってオムツ・パンツ等の使い分けを行っている。羞恥心に配慮するよう心掛け取り組んでいる。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルサイン値や体調を確認し入浴している。また、夜勤帯を除きいつでも入浴できるような体制を整えている。一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめるよう心掛けている。		
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前からの生活パターンを考慮し、就寝時間は定めていない。不眠傾向にある方は、日中に運動等を取り入れるように心掛けている。また、体調に合わせて身体を休めたり、精神安定を図るなど個々に対応するよう心掛けている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	”できること” ”できるであろうこと”を見極め、個々の出番があるよう日常生活の家事全般において場面作りを心掛けている。(洗濯物を干す・たたむ、花の水遣り、テーブルを拭く、食事の後片付け等)		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながら、本人の力量に応じて金銭管理が行えるように支援している。買い物についても毎日でも行ける機会を作るよう努めている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、町内会のイベント(バザー、盆踊りなど)等、外出の機会を促し、実施している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人、家族からの希望等の聞き取りを実施している。ご家族と旅行、法事、墓参り等実現できている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了解の下、利用者の希望に応じて電話利用の介助をしている。手紙のやり取りについても同様に支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	他の入居者に紹介の上、皆さんで歓迎するよう心掛けている。ホールや居室で飲食出来るよう配慮し、気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル等も含めミーティング時に話し合ったり、事あるごとに確認をしている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の居場所が把握できるように努めると共に、外出傾向にある利用者の状況を他の部署に伝達し協力を仰いでいる。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者の居場所や様子が把握できる位置にいるように努め、居室に居がちな利用者に対しては定期的に言葉掛けを行い、状態の把握・安全に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等の注意が必要な物品に対しては、目に付かないように保管場所を決め、注意を払い実行している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐための工夫をミーティング等で話し合い、知識向上及び事故防止に取り組んでいる。又、事故報告書やヒヤリハット報告書等を活用し、再発の防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル等を作成し勉強会や研修等で知識向上に取り組んでいるが、職員一人ひとりが熟知しているかは疑問である。	○	事故等に関する報告・報告書の作成等は出来ているが、処置について職員全員が的確に行えるわけではない。勉強会等で事例を挙げ知識を深め、全ての職員が応急手当や初期対応できるようにしていきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練やマニュアル等で災害時に対応できるように努めている。又、地域の人々の協力を得られるよう努めている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについて事前に家族等に説明し、対策を話し合っている。又、問題発生時には、その都度家族等に説明し対策を話し合っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	持病等の情報は個人ファイルに記し、アレルギー等についても職員間で共有している。朝の健康チェック時には、バイタルサイン測定値はもちろんのこと顔色や言葉等にも気を付けている。異変に気付いた際は、詳細に記録し医師に相談している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、服薬できるように支援している。目的等についても処方が変わった時、または常時確認できるようにしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便チェック及び繊維質を含んだ食材利用、また運動の働きかけ等を心掛けている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の力量に合わせた支援を行っている。必要に応じての回数(1日に2~3回)。義歯については、定期的に洗浄液に浸け清潔保持に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量について概ね把握し、記録している。肉・魚・野菜等栄養バランスや形状にも注意し支援している。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成している。勉強会も行っている。また、インフルエンザ予防接種については、法人から支援している。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等の高温消毒を行い、台所周辺の衛生に努めている。また、新鮮で安全な食材の利用を行う為、保管場所や保存方法に注意している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに利用者と一緒にプランター等に花を植えたり、ベンチを設置するなど親しみやすく、安心して出入りできるような工夫をしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の意見を取り入れ、音や光の調節を行っている。又、廊下・居間・食堂などの壁にデコレーション等で季節感を取り入れている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のベンチに座り花を見たり、玄関ホールに水槽と椅子を置き、何時でもゆっくり干渉できるようにしている。また、食堂・居間を常に整頓し利用者が利用しやすいようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に生活環境をあまり変えない為に使い慣れた物が必要である事を説明し、理解を得て家具や日用雑貨等を持ち込んでいただいている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温は、体感だけでなく温度計にて確認するようにしている。また、居室・トイレ・居間等の換気に努め、各所に設置の換気扇での換気や空気の入れ替え等を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーとなっている。また、各所に手すりを設置し、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。車椅子使用可能な空間の確保もしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	現在、混乱されるようなものは無く、今後混乱等が起こった場合に備えて、直ぐに対応できるよう体制と整えている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に自由に出られるようになっており、ちょっとした椅子・ベンチ等を設置している。物干し場を設けており自由に取入れたりしている。また、草花を植えており水やり等も行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々変化する状態を、察知し小さな変化も見逃すことのないように、入居者と接し、精神的にも身体的に安定した生活を送っていただけるように介護に取り組んでいる。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	趣旨の中に『サービスの原点は「信頼」「安心」「満足」の中のふるさとの福祉サービスの精神』と、利用者様を尊重する姿勢を明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「挨拶文」等を職員全員に配布し、理念や基本方針を周知させるのと同時にミーティングを開き、理念や基本方針に基づいた今後の事業の展開について話し合う。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者、御家族のニーズに応え、社会生活の支援を行っている。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	「挨拶」「接遇」等を職員全員に配布し、理念や基本方針を周知させ「ゆっくり、ゆったり、のんびり」と気軽に立ち寄って頂けるように努める。		
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や盆踊りに参加して交流に努める。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	理念や基本方針を周知させるのと同時に、全体会議を開き、理念や基本方針に基づいた地域貢献に率先して回りの掃除に取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価にて出された意見は、職員会議やミーティング等で話し合うだけでなく、現在の当事業所の達成能力と、その意見に対する改善の必要性について検討している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎日の連絡や報告を中心とした職員会議や、個々によるサービスの質の向上を目的としたケースカンファレンスやケア会議などの他に、提供するサービスの質の向上を目的とした会議を行っている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎日の連絡や報告を中心として行われる職員会議などで、サービスの質の向上に関する検討を行う。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成見後見制度や、地域福祉権利を擁護事業等の利用等、利用者の為に最大限の努力をしようと考えています。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実際の事例などを踏まえて勉強会を行っています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当事業所では、北九州市版「介護サービス利用標準契約書」を使用しており、その内容を遵守し、利用者の保護を第一に考えています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の尊厳を重視して、不満、苦情 を改善する。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	家族や友人等との関係を把握し、支援が 必要な利用者のサービス提供計画に個別・ 具体的な支援方法を明示、実施している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの相談に対応する方法を定め ており、利用者は実際に介護に当たる職員 以外でも他の職員などにも相談できるよう に相談窓口を開設しています。書類として も明文化しています。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	職員全員に理念や基本方針を周知させ、 週一回～月一回ミーティングを開き、理念 や基本方針に基づいたケアを行う。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	スタッフの希望休等を考慮し、無理のない 勤務体制を行っている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動にて利用者様が不穏になる事 を防ぐ為、極力行わないようにしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別に関係なく採用している。 働きやすいように考慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	本や資料にて研修参加を支援している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、施設外研修の参加を行っている。 また新しい事業転換に向け、日々勉強し努力するように協力し合う。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと合同で勉強会や相互訪問を行い、サービスの質の向上に向け、日々活動を行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ユニット外でスタッフがリラックス出来るように休憩室を設け、ゆっくりと身体を休められるように和室を用意している。 内外でのコミュニケーションを取るため、親睦会などを開いている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	目標と責任を持たせ、業務に対し向上心を持って働けるように努める。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談窓口を設け、随時相談に応じ、又満足出来るサービスに向け、色々な出来事を傾聴し、受け止め改善を行う。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談窓口を設け、随時相談に応じている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直ぐに入所ではなく、今何が必要なのかを把握し、求めている事等を解決するように努める。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学、体験入所等を行い、施設内の雰囲気に徐々に慣れて頂いている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	寄り添う介護「信頼、安心、満足」の上質な介護サービスを提供し、関係を築いている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に綿密に情報を提供し、利用者様を共に支えていく関係を築いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に行事等に参加していただき、利用者様と家族が良い関係を築いていける環境作りに努めている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所等にドライブ散策等、又電話や手紙等で関係が途切れる事のないように行っている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者様の性格、生活環境を把握し、トラブル時は職員が中に入り、良い関係を築けるように努める。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族への情報提供や相談窓口を開き、利用終了後も気軽に相談できるように努めている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位の意味を尊重し、思いや希望、意向を把握し、話しやすい環境作りに努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、家族からの聞き取りを行い、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を把握し、サービスに努める。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の日報記録やバイタルチェック等をこまめに行い、異変を感じたときは前記の記録等と比較し、総合的に把握するように努める。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの情報や本人からの生活歴を聞き取り、個々の特徴を捉え、介護計画を作成するように努めている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院時や心身状態を把握し、変化に合わせて介護計画の見直しを行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの内容を個別に記載し、実践しているスタッフとの連絡簿等を作り、気付いた事を記載しカンファレンスを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月2回の往診や定期的な受診を行い、健康管理、異常の早期発見に努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者様の安心、安全の為、豊かな暮らしが出来るように民生委員やボランティア、町内会、自治会、警察、消防等と協力し、支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	個々の意見や必要性に応じて、他のサービスを利用出来るように支援をしている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	連絡を密に取るように努めている、地域包括支援センターや支援事業者との連携を図り、相談等も受けている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医と連携を取り、利用者様、家族が満足の行くように支援している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医に協力をお願いし、診断や治療を受けられるように支援している。		
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護職員と利用者の健康管理を相談し支援している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向けて医療機関との情報交換や相談に努めている。又、医療関係者と連携を図り、生活リハビリを中心としたケアを実践している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を踏まえ、方針等をかかりつけ医と話し合い、連携を図り、対処出来るように話し合い共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態に応じ、家族やかかりつけ医と連携を図り、快適な暮らしが出来るようにチームで支援し努めます。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や本人に関わるケアスタッフと十分な情報交換を行い、環境の変化を最小限にし、ダメージを防ぐ事に努める。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を中傷するような言語や対応に注意し、守秘義務の徹底に努めている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人の意思を尊重し、その人らしく最期迄快適に暮らせていけるよう支援していきたい。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の生活レベルに合わせ、その人らしく生活出来るように支援している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	事前に好み等を本人や家族から聞き、月1回ホーム内の理容、美容、その他施設外での協力をお願いし、本人の望む店に行けるように努める。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も3食同じ食事を摂り、身体状況に応じ、塩分等ひかえめに考慮し、一緒に準備や、片付けを行っている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康管理に十分注意し、飲み物、おやつ、タバコ等好みのものを嗜好できるように配慮している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握し、身体状況に応じ、習慣を活かし、日中は極力布パンツを使用するように心掛けている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調を確認し、入浴をしている。入浴剤にて香りを楽しんで頂いたり、その都度ゆっくり入浴出来るように心掛けている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前からの生活パターンを考慮し、就寝時間は定めてなく、その状況に応じて入眠して頂いている。不眠傾向にある方は日中気分転換を図り、散歩等取り入れている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活にメリハリをつけ日中はレクリエーション等に取り組み、役割、楽しみ事、気晴らしの支援をしている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と相談しながら、本人の力量に応じて金銭管理が行えるように支援している。 買い物についてスタッフに同行し行ける機会を設けるよう努めている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、散歩、町内会の行事等、外出の機会を促し実施している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御本人、家族の希望等を聞き取り、外出出来るよう支援している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の了解の元、利用者様の希望に応じ電話や手紙のやり取りを介助し支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	他の利用者様に紹介の上、皆様で歓迎するように心掛けている。 気軽に訪室できるよう心掛け、過ごせるように支援している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル等も含めミーティング時に話し合ったり、事ある事に確認をしている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の居場所が把握できるように努めると共に、帰宅願望の傾向にある利用者の状況を常に把握しているように努める。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者の居場所や様子が把握出来るように努めている。居室に籠もりがちな利用者様に対しては、定期的に声掛けを行い、状態を把握している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等注意の必要な物品に対しては、目の付かない場所に保管し、注意を払っている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策にて常にミーティング等で話し合い、知識向上及び事故防止に取り組んでいる。 ヒヤリハット等報告書を活用し、再発防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル等を作成し、勉強会や研修等で知識向上に取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練やマニュアル等で災害時に対応できるように努めている。又、地域の人々の協力を得られるように努めている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクについて、事前に話し、家族に説明し、対策を話し合っている。又、問題発生時には、その都度家族に連絡説明し、対策を話し合っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	持病の情報は個人ファイルに記し、常に把握している。バイタルチェックや顔色、言葉等にも気を付けている。異変に気付いた際は速やかに対応するように努めている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、服用出来るように支援している。 処方が変わった時等、口答、もしくは連絡等にて常時確認できるようにしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便チェック及び、排便コントロールに重視し、繊維食等を多く含んだ飲食物の工夫や運動療法等に取り組んでいる。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	常に清潔保持を保つ為、日に2～3回口腔ケアを施行。 義歯は定期的に洗浄液に浸け、清潔保持に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量について把握し、記録している。 食事は栄養バランスや形状を考え注意し支援している。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成している。ミーティングや勉強会を開き予防対策を行っている。 インフルエンザ予防接種については法人から支援している。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等の高温消毒を行い、台所周辺の衛生に努めている。 最低週2回～3回冷蔵庫の中を清掃し、管理している。食材も常に新鮮で安全な物を購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回りのプランター等に花を植え、又ベンチを置き出入りしやすい雰囲気作りに工夫している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の意見を取り入れ、音や光の調節を行っている。又、居室や廊下、居間、食堂等の壁に毎月季節の物を飾り、季節を感じて頂いている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ベンチに座り花を見たり、ホールに水槽と椅子を置き、いつでもゆっくりと鑑賞できるように工夫している。又、食堂や居間でゆっくりと雑談が出来るように整理整頓している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄の生活環境をあまり変えないように家族と話し合い、使い慣れていた家具や日用品を持ち込んで頂いている。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温は、体感だけでなく湿度計にて確認、又居室、トイレ、居間等の換気に努め、各場所設置の換気扇での換気を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーになっている。又、各所に手すりを設置し、安全で自立した生活が少しでも送れるように工夫している。車椅子使用可能な空間も確保している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	現在、混乱させるようなものは無く、今後混乱等が起こりうる場合、すみやかに対応できるように体制を整えている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭やベランダに自由に出入りできるように配慮している。又、洗濯物等自由に取入れたり、花壇に水やり等も出来るように活かしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果				
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)				
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と	②家族の2/3くらいと	③家族の1/3くらいと	④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように	②数日に1回程度	③たまに	④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている	②少しずつ増えている	③あまり増えていない	④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が	②職員の2/3くらいが	③職員の1/3くらいが	④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が	②利用者の2/3くらいが	③利用者の1/3くらいが	④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が	②家族等の2/3くらいが	③家族等の1/3くらいが	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々利用者は変化し続けています。それに対応できるよう、情報収集できるようできるだけ多く接し少しの変化も見逃すことのないように、また申し送りがスムーズに出来るように、日々、介護しています。